

化学療法計画書

治療法名	ハラヴェン				
コース数		コース目			
腫瘍種	悪性軟部腫瘍				
患者名		♀	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科	Dr	
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	予定日	1/1	1/8	1/15	1/22
ハラヴェン	1.4 mg/m ²	↓	↓		↓
デキサート	6.6mg	↓	↓		↓
治療開始日			治療間隔	3週毎	予定コース数
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m ²
eGFR	60 ml/min	eGFR/BSA		49 ml/min	

初回投与開始基準	
・好中球 ≥ 1500	・Plt ≥ 10万
・Hb ≥ 9.0	
・AST/ALT ≤ 2.5 × ULN (肝転移あり ≤ 5 × ULN)	
・T-Bil ≤ 1.5 × ULN	・Cr ≤ 1.5 × ULN
投与開始の基準 (2コース目以降)	
・好中球 ≥ 1000	・Plt ≥ 7.5万
・AST/ALT ≤ 2.5 × ULN (肝転移あり ≤ 5 × ULN)	
・T-Bil ≤ 1.5	
・肝機能障害のある患者は慎重投与： 上記の基準を遵守 (例) Child-Pugh A : 1.1mg/m ²	
減量基準	
・好中球数G4が7日以上	・FN
・血小板減少：5万未満で輸血を有する	
・血小板減少 < 2.5万	
・非血液毒性 (脱毛除く) G3以上	
・副作用等で2週目に休薬した場合	
減量レベル	
1.4mg/m ²	1.1mg/m ²
1.1mg/m ²	0.7mg/m ²
0.7mg/m ²	投与中止考慮

Day1、8

- 1) 生理食塩液 50ml
デキサート 6.6mg 30分
- ↓
- 2) 生理食塩液 50ml
ハラヴェン 2mg 全開で
- ↓
- 3) 生理食塩液 50ml フラッシュ

☆各サイクル2週目で開始条件を満たさない場合
で1週以内に回復時は減量して投与
次サイクル開始時は前回投与時から2週間あける

化学療法計画書

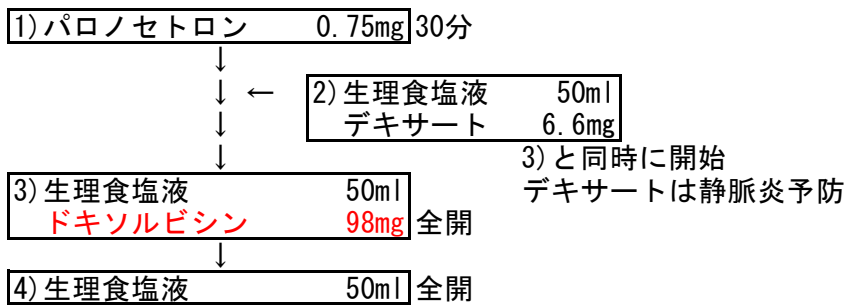
治療法名	DXR単剤70mg/m ²		
コース数	1	コース目	
腫瘍種	悪性軟部組織肉腫		
氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...	
	予定日	1/0							1/7						1/14		
ドキシソルビシン	70 mg/m ²	↓															↓
パロノセトロン	0.75mg	↓															↓
デキサート	6.6mg	↓															
デカドロン	8mg		↓	↓	↓												
治療開始日																	
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1.40	m ²	治療間隔	3週毎	予定コース数	6	コース				
eGFR	60	ml/min	eGFR/BSA	49	ml/min												

Day 1

投与開始基準 ・好中球>1,500 ・Plt>100,000 ・AST/ALT<2xULN, T-Bil<1.5 (肝転移による上昇除く) 3.0≥T-Bil≥1.5⇒(DXR:50%) ・G2以上の非血液毒性がない ・PS 0-1. PS 2は十分注意
次コースからの減量基準 ・WBC<1,000, Plt<25,000 ・発熱性好中球減少 →10mg/m ² 減量考慮 ・悪心嘔吐、脱毛除くG2以上の 非血液毒性 →10mg/m ² 減量を考慮



・デカドロンは day 2の朝から

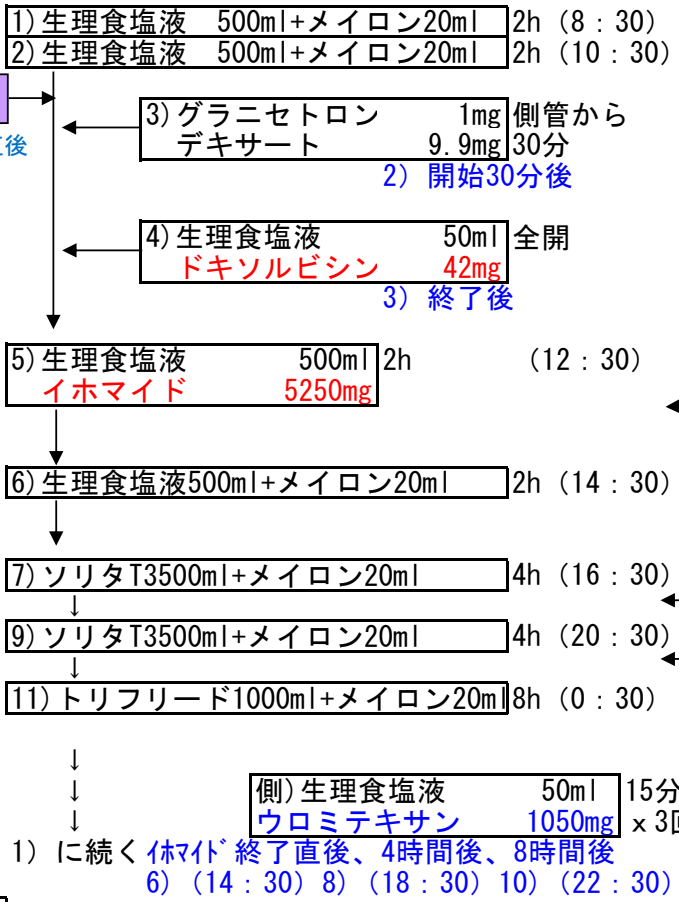
化学療法計画書

治療法名	DXR+IFM		
コース数	1	コース目	
腫瘍種	軟部組織腫瘍		
患者名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科 Dr
開始予定日			
治療内容	Day	1 2 3 4 5 6 7 8 15 22 . . . 29 . . .	
	予定日	1/0	1/7 1/14 1/21 1/28
ドキソルビシン 30 mg/m ²		↓↓	↓↓
イホマイド 3750 mg/m ²		↓↓	↓↓
グラニセトロン 1mg		↓↓	
デキサート 9.9mg		↓↓	
ウロミテキサン 750 mg/m ² x3		↓↓	
アプレピタント 125mg		↓ (抗がん剤開始 1時間前)	
アプレピタント 80mg		↓↓ (朝食後)	
デカドロン 8mg		↓↓	
治療開始日		治療間隔	3週毎 予定コース数 コース
身長 150 cm	体重 50 kg	BSA 1.40 m ²	
eGFR 60 ml/min	eGFR/BSA 49 ml/min		

Day1-2 8:30開始

投与開始基準
・ WBC>3000, 好中球>1,500, Plt>100,000
・ AST/ALT<100, T-Bil<1.5
3.0≥T-Bil≥1.5⇒ (DTX: 50%)
・ Cr<1.2, CCr>60 (<30でIFM75%量)
・ G2以上の非血液毒性なし
減量基準
・ WBC<1,000, Plt<25,000
・ 発熱性好中球減少
・ G3の非血液毒性

アプレピタント
2) 開始直後



day2, 3のアプレピタントは朝食後
デカドロンはケモ開始Day3の朝食後より3日間

(★1日尿量3000ml以上確保必要)
3日間体重測定 (AM) ⇒1kg増えたら利尿剤考慮 (医師に相談)

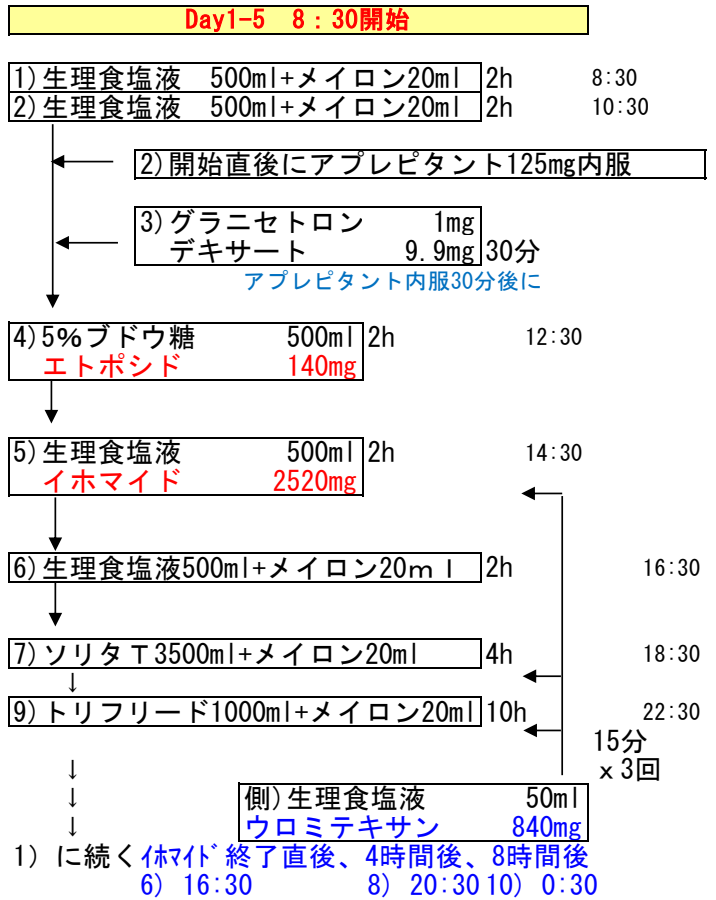
化学療法計画書

治療法名	ETOP+IFM		
コース数	1	コース目	
腫瘍種	骨・軟部腫瘍		
患者名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28
エトポシド	100 mg/m ²	↓	↓	↓	↓	↓							↓	↓	↓
イホマイド	1800 mg/m ²	↓	↓	↓	↓	↓							↓	↓	↓
グラニセトロン	1mg	↓	↓	↓	↓	↓									
デキサート	9.9mg	↓	↓	↓	↓	↓									
ウロミテキサン	600 mg/m ² x3	↓	↓	↓	↓	↓									
アプレピタント	125mg	↓	↓	↓	↓	↓									
アプレピタント	80mg	↓	↓	↓	↓	↓									
デカドロン	8mg														
治療開始日									治療間隔	3~4週間	予定コース数				コース
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1.40	m ²							
eGFR	60	ml/min	eGFR/BSA	49	ml/min										

投与開始基準
・ WBC>3000, 好中球>1,500, Plt>100,000
・ AST/ALT<100, T-Bil<1.5
・ Cr<1.2, CCr>60 (<<30で75%量)
・ G2以上の非血液毒性なし
減量基準
・ WBC<1,000, Plt<25,000
・ 発熱性好中球減少
・ G3の非血液毒性



day2~5のアプレピタントは朝食後
デカドロンはDay6の朝より開始

★1日尿量3000ml以上確保必要
3日間体重測定 (AM) ⇒1kg増えたら利尿剤考慮 (医師に相談)

化学療法計画書

治療法名	DOC+GEM		
コース数	1	コース目	
腫瘍種	軟部組織肉腫		
氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科 Dr

開始予定日	
-------	--

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21			
ゲムシタビン	900 mg/m ²	↓							↓				↓			
ドセタキセル	75 mg/m ²								↓				↓			
グラニセトロン	1mg								↓				↓			
デキサート	6.6mg	↓							↓				↓			
デカドロン	8mg								↓↓↓				↓			

治療開始日		治療間隔	3週毎	予定コース数		コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m ²	
eGFR	60 ml/min	eGFR/BSA			49 ml/min	

投与開始基準
・好中球>1000 Hb>8.0
・Plt>100,000
・AST/ALT<5xULN, T-Bil<ULN
・ALP<2.5xULN Cr<2.0
・末梢神経障害<G1
・PS 0-2
・G2以上の非血液毒性がない
次コースからの減量基準
・発熱性好中球減少
・G2の神経障害
・G3以上の肝障害
・G3 -G4の非血液毒性 ⇒2剤25%減量

Day 1	
1) 生理食塩液 50ml	
デキサート 6.6mg	30分
↓	
2) 生理食塩液 100ml	
ゲムシタビン 1260mg	30分
↓	
3) 生理食塩液 50ml	

Day 8

投与可否の基準
・WBC>1500
・Plt>70,000
・AST/ALT<100

1) グラニセトロン 1mg	
デキサート 6.6mg	30分

2) 生理食塩液 100ml	
ゲムシタビン 1260mg	30分

3) 5%ブドウ糖 250ml	
ドセタキセル 105mg	60分

4) 生理食塩液 50ml	フラッシュ
---------------	-------

・デカドロンは day 9の朝から

* 投与開始時まず5ml早送りし、
10分間は50ml/hとしてベッドサイドで
嚴重にアレルギー症状を観察。
問題なければ250ml/hへ